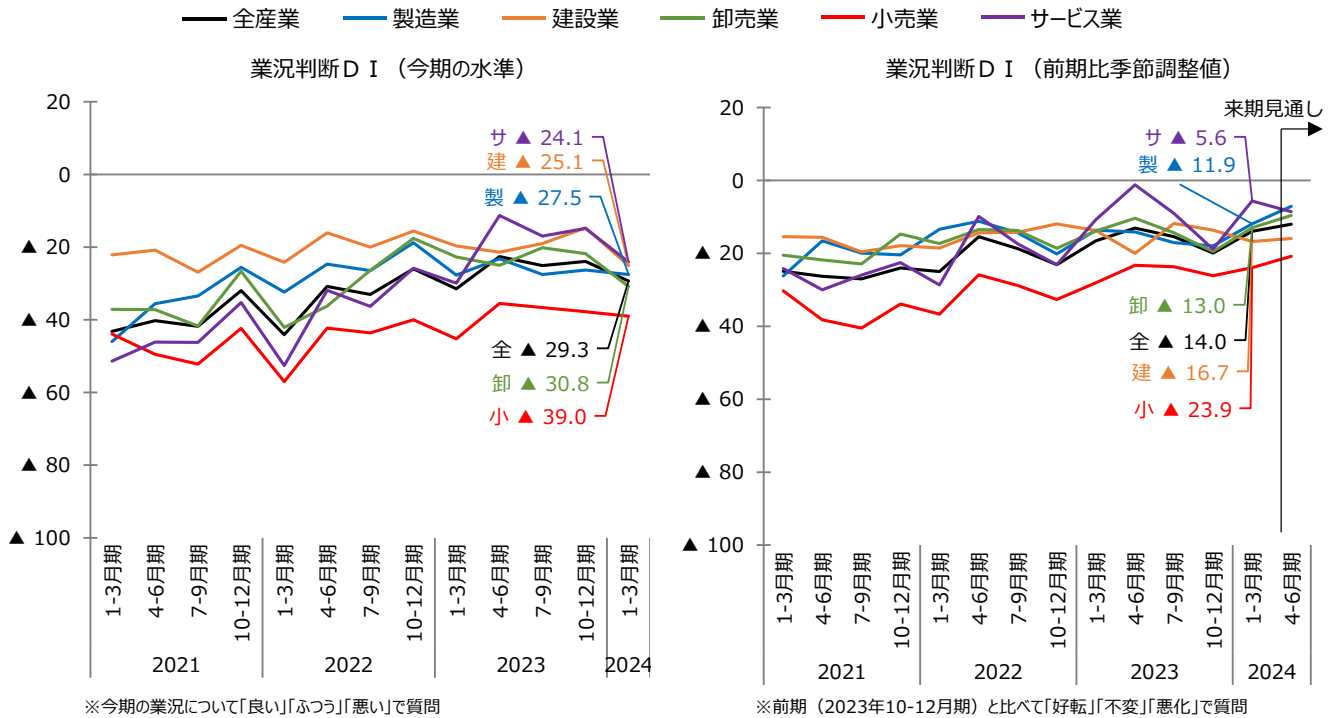


# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中国

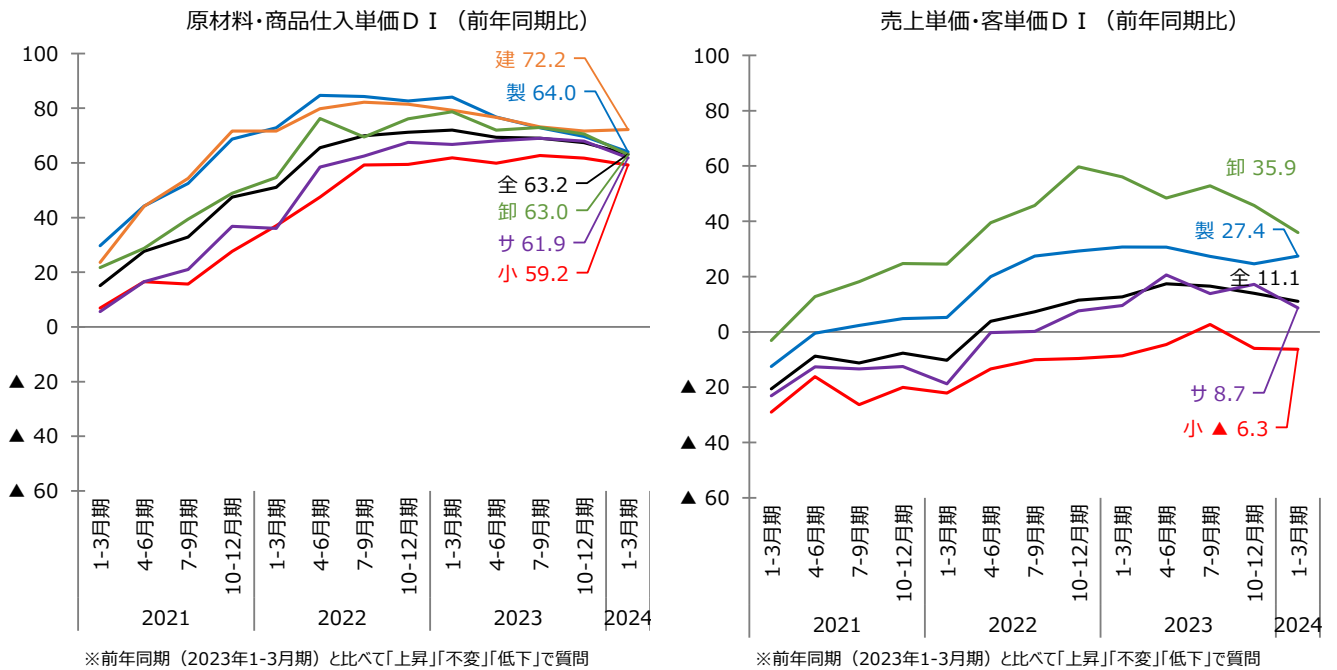
## 1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より5.4ポイント減の▲29.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.2ポイント減の63.2と4期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント減の11.1と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、中国：1,669企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中国

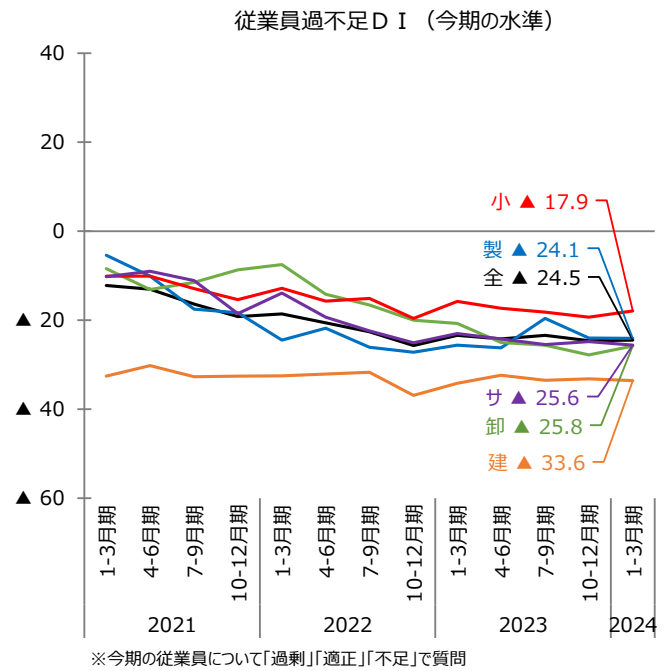
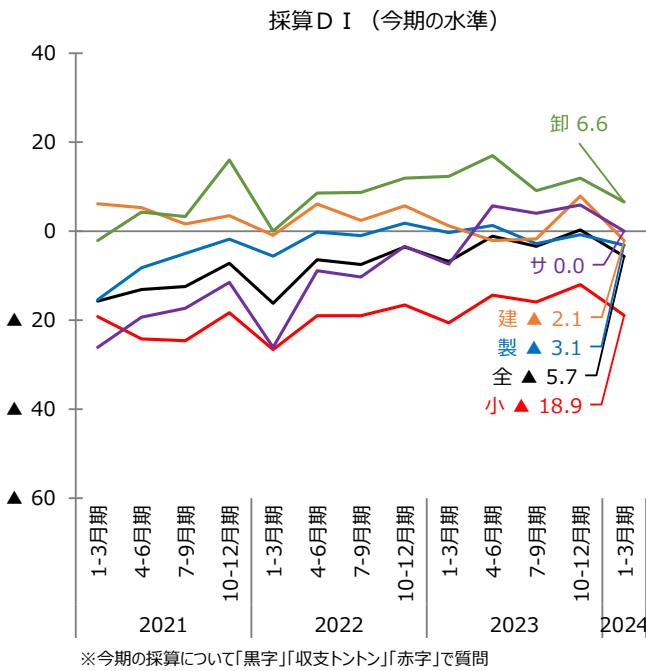


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より6.0ポイント減の▲5.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント増の▲24.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、建設業、製造業で低下した。



## 5. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	厳しい状況の中、古い工場の修理、修繕をしたいが、経費の増加、売上減少、先行きの不透明な状態の中では思い切ること不安である。我社ならでは製品の売込みに力を入れることを考えているところ。	製造業 <small>他に分類されない木製品製造業(竹、とうを含む)</small>
	各業界の建材、人件費等の上昇により、粗利益確保が難しい。また受注が難しくなっている。	建設業 木造建築工事業
	物不足・仕入価格の高騰等の悪影響が強く、受注に苦戦している。活動制限がなくなったことによる経費増加や、設備投資もあり、利益確保が厳しい状況となっている。	卸売業 <small>電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)</small>
	昨年5月以降、コロナの影響も一段落したと思っていたが、物価高で周辺の大型店や安売り店への買い物移行が否めない。客単価の減少・仕入単価の上昇で業況は好転していない。	小売業 酒小売業
	コロナ禍が収束に向かい、客数も戻ってきたように思えるが、人口減少と少子高齢化が進み、需要の低下に伴う売上は、減少傾向にある。	サービス業 食堂、レストラン(専門料理店を除く)
見通し	半導体市場は、緩やかな回復基調。生成AI市場が加速しており、AI半導体が既に枯渇し、半導体関連企業の生産設備が見られ、今後も注視。	製造業 プラスチック板・棒製造業
	物価の上昇が続く中、当社の業務内容の分野は影響が出やすく、今後は、住宅設備の受注工事は、減少方向にあると予想している。前年、前期と比較した時には、大きな変化は見られないが、決して上昇傾向にあるとは言えない。	建設業 その他の管工事業
	昨年12月の定年退職による人員減をカバーできず、困っている。物価高によると思われる引合いの低調さが、今後回復するかどうかの不安もある。コロナからの改善は見込めるが、先行きは予想しづらい。	卸売業 酒類卸売業
	従業員の賃金を引き上げたが、新たな人材は入ってきていない状況。深刻な人材不足に陥っている。ガソリン補助金の効果も、春先までと予想されるため、今春以降は、大変厳しい状況になると思われる。	小売業 ガソリンスタンド
	売上高が堅調に推移している一方で、従業員教育が進んでいない。今後は熟練技術者のノウハウをデジタル化し、従業員間で情報共有できる仕組みづくりに、取り組む計画である。	サービス業 <small>他に分類されないその他の事業サービス業</small>

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。